

# 「東郷学園義務教育学校の東郷土人形伝承活動の取組」

## 1 学校名

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

## 2 学年・人数

4年生 計39人

## 3 日時・場所

### (1) 練習の日時・場所

令和4年5月～7月 ふるさと・コミュニケーション科（本校技術室）

### (2) 発表の日時・場所

完成後、東郷学園義務教育学校にて展示

## 4 伝承・活用に取り組んでいる伝統工芸品について

### (1) 名称

東郷土人形（とうごうつちにんぎょう）

### (2) 由来

戸木田伊助さんらが東郷でとれた粘土を使って、明治の初め頃から作り始めた。人形作りが盛んな頃は、東郷町舟倉に、人形専門店が2～3軒あり、2月には人形市が開かれていた。作品としては、菅原道真公、庶民のささやかな安全や幸福・五穀豊穰や商売繁盛を願う恵比寿様や大黒様、縁起物・節句物・歌舞伎役者等、およそ50種類の人形が作られていた。

### (3) 構成等

空気を抜き、適度に柔らかい粘土を作る。粘土を二つに分けた型枠に入れ、指で押して型にしっかりとつける。同じ方法で一方の型に粘土をつける。二つの型枠から外した粘土を合わせる。乾燥させ、胡粉をぬり、絵付けを行い完成となる。

## 5 保存会や地域との連携の具体

東郷土人形の最後の人形師であった<sup>さかき じう えもん</sup>榎治右衛門氏が昭和4年に亡くなってから、途絶えたと言われている。東郷町文化財保護審議会委員長に<sup>やまぐち ちゆうせい</sup>山口忠正氏が就任し、東郷土人形が消え去ることを危惧し、有志と共に保存活動を始めた。現在は、齋藤政恭氏を中心に保存活動に取り組んでいる。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

4年生のふるさと・コミュニケーション科「東郷地域の伝統芸能の継承」の一つとして位置付け、制作活動に取り組んでいる。完成した作品は、3月に行われる「おのぶっ祭」に展示し、参加した方々に鑑賞していただいている。制作活動では、現存する東郷土人形の型枠等の道具を使い、可能な限り当時に近い作り方で指導していただいている。児童は数種類の型枠の中から好きな型を選択し、自由に彩色しながら、楽しく制作に取り組んでいる。

東郷地域では、希望する保護者や児童生徒を対象に公民館講座の一環として、

「土人形作り」を開設し、地域の方々の興味関心を高めることに努めている。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



型枠に粘土をつめる作業



人形に絵付けをする作業

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【児童生徒】

土人形にこんなに沢山の種類があることを初めて知りました。私は招き猫を作りましたが、型入れは少し力が必要で、色付けも細かい部分が難しかったです。でも、完成した土人形を見たら、とてもかわいくて、うれしかったです。

### 【教職員】

子供たちは、地域に東郷土人形という素晴らしい文化があることを知り、文化の継承に努めてほしい。地域の方に指導役として関わっていただき、とてもよい機会となっている。

### 【保護者から】

一つ一つが丁寧に作られていて、時間をかけて取り組んだことが伝わってきた。いい経験ができてよかったと思う。

### 【地域・保存会の方から】

子供たちが、東郷土人形を実際に作ることで、文化の伝承の担い手になってもらいたい。公民館講座でも「東郷土人形」の講座があるので、多くの方に参加してもらいたい。また、東郷公民館に常設展示している作品も見てもらいたい。